

大津町 第7次大津町振興総合計画策定等業務

議事録

会議： 第4回大津町振興総合計画策定審議会

日時： 2025年9月25日(木) 13:30-15:30

場所： 大津町役場3階 会議室302AB

出席者 【委員】

- (敬称略) :
- 三宮 美香 (大津町議会 副議長)
 - 佐藤 真二 (大津町議会 議会運営委員長)
 - 時松 智弘 (大津町議会 総務常任委員長)
 - 山本 富二夫 (大津町議会 文教厚生常任委員長)
 - 大村 裕一郎 (大津町議会 経済建設常任委員長)
 - 黄 在南 (熊本県立大学 名誉教授)
 - 井寺 美穂 (熊本県立大学 総合管理学部准教授)
 - 津留 武芳 (大津町教育委員会 教育長職務代理者)
 - 徳永 誠也 (大津町社会教育委員)
 - 荒木 伸弥 (NPO 法人クラブおおづ 副理事長)
 - 松本 光行 (大津町防災士連絡協議会 会長)
 - 備海 伸隆 (大津町認可保育園園長会 会長) (欠席)
 - 藤本 義隆 (大津町PTA連絡協議会 会長) (欠席)
 - 吉田 和信 (大津町民生委員児童委員協議会 会長)
 - 松木 雄一郎 (大津町社会福祉協議会 事務局長)
 - 矢野 文男 (大津町老人クラブ連合会 会長)
 - 山下 和貴 (肥後おおづ観光協会 理事長) (欠席)
 - 古庄 寿治 (JA菊池大津中央支所 担当理事) (欠席)
 - 池田 雅一 (大津町企業連絡協議会 副会長)
 - 高木 希三子 (大津町商工会 副会長)
 - 松本 幸祐 (大津町区長会 会長)
 - 吉岡 久美子 (大津町女性の会)
 - 松岡 さくら (東熊本青年会議所 地域活性グループ委員)
 - 古場 達也 (熊本銀行大津支店 支店長)
 - 川添 英男 (肥後銀行大津支店 支店長)
 - 錦戸 亨 (熊本県北広域本部 審議員兼振興課長)
 - 嶋田 純 (公募委員)
 - 桑原 正浩 (公募委員)
 - 西野 勝 (公募委員)

【大津町】

- 木村 欣也（総務部長）
- 白石 浩範（住民生活部長）
- 大隈 寿美代（健康福祉部長）
- 岩下 潤次（産業振興部長）
- 高橋 和秀（都市整備部長）
- 村山 博徳（教育部長）
- 伊藤 秀馬（総務統括専門官）
- 大塚 昌憲（総務部 総合政策課 課長）
- 蔵森 慎也（総務部 総合政策課 総合政策係長）
- 坂本 郁子（総務部 総合政策課 主事）

【トーマツ】

- 皆本 一憲（現地）
- 石堂 麻衣（Web）
- 井上 翔太（現地）
- 真鍋 麻紀（Web）

議題：

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議事
 - ① 基本構想
 - ② 基本計画素案
4. 閉会

資料：

1. 次第
2. 資料 1 第 7 次大津町振興総合計画基本構想素案
3. 資料 2 人口シミュレーション概要
4. 資料 3 第 7 次大津町振興総合計画基本計画素案
5. 第 3 回大津町振興総合計画策定審議会_議事録

議事録

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議事
 - ① 基本構想素案
 - ✧ 事務局より「資料 1 第 7 次大津町振興総合計画基本構想素案」「資料 2 人口シミュレーション概要」を用いて説明した。
 - 第 7 次大津町振興総合計画策定にあたり第 6 次大津町振興総合計画の目標指標の達成状況等の総括や振り返りが必要だと考える。（委員）

- 第 6 次大津町振興総合計画の各施策は府内の内部評価と評価委員会の外部評価を毎年受けている。評価結果を踏まえて各担当課で第 7 次大津町振興総合計画を策定している。（事務局）
- 第 6 次大津町振興総合計画は策定者によって評価されており、第 7 次大津町振興総合計画とは切り離されているのか確認したい。第 7 次大津町振興総合計画の読み手にとって策定経緯がわかる計画とするべきだと考える。（委員）
- 第 7 次大津町振興総合計画と評価結果を切り離しているものではなく第 6 次大津町振興総合計画の評価結果も踏まえて策定作業を進めている。評価委員会での評価結果は HP で公表している。（事務局）
- 新たな計画を策定するうえで第 6 次大津町振興総合計画からの連続性が重要である。第 7 次大津町振興総合計画は評価委員会の評価結果が反映されているか確認したい。（委員）
- 第 6 次大津町振興総合計画の評価結果を踏まえて第 7 次大津町振興総合計画の策定作業を進めている。（事務局）
- 他自治体の総合計画は 1~2 ページ程度で振り返りのページを設けている事例がある。（会長）
- 各施策について詳細な記述は必要ないが、読み手にとって理解しやすい計画とするために第 6 次大津町振興総合計画の検証結果を掲載してよいと考える。（委員）
- 第 6 次大津町振興総合計画の検証結果や第 7 次大津町振興総合計画の策定経緯が読み手に分かるようにすべきである。（委員）
- 第 6 次大津町振興総合計画策定後に町長選挙があり新たな 101 のマニフェストが出ている。行政の振興総合計画と町長のマニフェストは擦り合わせが必要であり、必ずしも継承されない施策もある。継続性と新規性のバランスが重要だと考える。（委員）
- 委員からの意見に対する対応として、現在の項目に評価結果を追加することや振り返り・評価に関する章を設けることを検討してほしい。（会長）

② 基本構想素案

- ✧ 事務局より「資料 3 第 7 次大津町振興総合計画基本計画素案」を用いて説明した。
 - 1 頁の「優良農地の確保と農業用施設の維持管理が重要」について農地の確保は地下水の量の確保につながる。過去の策定審議会で第 7 次大津町振興総合計画に盛り込むとなっていたため追記

いただきたい。23 頁は地下水の保全が記されているが地下水の量について第 1 章産業に記してほしい。（委員）

- 追記の対応をしたい。（事務局）
- 環境省から地域循環共生圏という考え方が示されており熊本県としても重視している。地下水という資源について菊陽・大津地域全体でその視点から検討してほしい。（委員）
- 5 頁の「スポーツビジネス確立とその収益化、経済効果創出の必要性」について団体としてスポーツイベントを実施しているが、宿の確保が困難であることや宿代が福岡市より高い状況であるためコンベンションに関連の現状と課題に記してほしい。（委員）
- 対応を検討する。（事務局）
- 5 頁をもとに新たに政策分野にスポーツが位置付けられたが、スポーツの町を実現することはできるのか確認したい。スポーツの町・大津を実現するための素材はあるが、実現するためには今まで以上に予算を注ぎ込み、投資を行わなければならないと考える。（委員）
- 資料 1 の政策分野別的基本方針と資料 3 の基本計画の現状と課題が噛み合っていない部分があると考える。例えば、資料 1 「教育・文化・スポーツ」はインクルーシブや多文化共生等のキーワードが出てくるが、資料 3 「教育・文化・スポーツ」の現状と課題には言及されていない。基本構想と基本計画との整合性の確保が必要である。記載項目の大小の関係や粒度の整理が必要である。まちとして何を選択してどこに集中するのかを検討いただき、施策の優先順位を明らかにしてほしい。（委員）
- 基本構想は 8 年間、基本計画は前期 4 年間の計画であるため、基本構想が大、基本計画が小として基本計画でより詳細を記す。いただいたご意見を踏まえて各計画の関係性を見直し文言を確認する。（事務局）
- 施策の体系や現状と課題の大枠は第 6 次大津町振興総合計画を踏襲した内容でよいのか確認したい。町の現状に照らして問題ないのか再度確認が必要だと考える。例えば、5 頁の「観光都市としての立ち位置大津モデルの不在」が変わらず使用されているが問題ないか確認したい。（委員）
- 第 6 次大津町振興総合計画と第 7 次大津町振興総合計画の現状と課題を比較し再検討する。（事務局）
- 5 頁に江藤家住宅や第 11 代横綱不知火光右衛門の墓所等が観光地として挙げられているが、引き続き観光地として推していくか確

認したい。（委員）

- 歴史的な遺産にこだわり過ぎている。桜並木や空港の写真撮影スポットを観光資源として活用できると考える。（委員）
- 観光地にこだわるのではなく、地蔵祭りやつつじ祭りのイベント広報を強化し活用できると考える。地域交流の活性化にもつながる。（委員）
- 風光明媚な観光スポットはないため文化的な財産に力を入れてきだが、イベントや体験を盛り込むことを検討したい。（事務局）
- 様々なイベントが開催されているなかで大津町の主力イベントが明確でない。行政や主催者の連携がとれていない。地蔵祭りは祭りの趣旨を理解していない参加者も多い。伝統行事の継承と記載があるため対応が必要であると考える。また、公園の整備への言及があるが夏休みの子どもたちは猛暑により遊び場がない。（委員）
- 祭りは多様な実施主体があり規模によって連携方法が変わる。祭りの歴史的な意義は大切にしたいため実行委員会でも取り上げて対応を検討したい。（事務局）
- 子どもの遊び場や勉強場所は、子どもを対象としたアンケートからもニーズが高いと把握している。子育て支援拠点で室内の遊び場の整備を検討している。（事務局）
- 6 頁の「健康・保険の充実」は「保険」でよいか確認したい。（委員）
- 健康保険に関する記載を移動したため確認のうえ訂正する。（事務局）
- 6 頁以降の保健・福祉分野は地域福祉の現状と課題の記載が薄いように感じる。地域福祉計画の内容を反映してほしい。また、11 頁「令和 6 年度の町民アンケートでは」以降の文章の意味を確認したい。地域コミュニティの希薄化や外国人住民の増加を課題として明示すべきである。随所に地域づくりや地域住民との協力という表現があるが、現在の情勢として住民の参加を得られないため、地域コミュニティの維持には本腰を入れてほしい。（委員）
- 地域福祉は地域福祉計画の内容と整合性を図ったうえで作成しているが、改めて社会福祉協議会とも内容を協議したい。また、町民アンケートに関する内容はわかりやすい書きぶりに修正する。（事務局）
- 10 頁の「就労支援や社会参画の推進が必要」で「地域共生社会」の表現が使用されている。地域共生社会は障がい者だけの表現で

はないため注意が必要である。また、「個別のニーズに応じた支援を行ながら、本人が活躍できる環境を整えることが必要」には、現在取り組みを進めている「農福連携」の記載を盛り込むとわかりやすくなると考える。（委員）

- 大項目で障がい者福祉の充実と定義付けしているため地域共生社会の文言をこのまま使用することで問題ないと考える。また、「本人が活躍できる環境を整えることが必要」に具体的な取組名を盛り込むことも含めて対応を検討する。（事務局）
- 3 頁の「企業誘致」は今後工業団地が整備され企業誘致が進むことになると思われるが、誘致した企業に見合う雇用と人材育成が必要である。現在、人材の取り合いになっており非常にシビアな状況である。学校に募集案内を行うも人材は集まらず人材の確保に苦慮しているため喫緊の課題として対応を検討してほしい。（委員）
- 人材確保の課題の深刻さは感じている。課題をさらに強調した書きぶりとし、対応策を検討したい。（事務局）
- 施策の方針は行政だけでは取り組むことができない課題が多くなっているため具体的な団体名や関係団体との連携を言及してほしい。（委員）
- 具体的な団体名を記すことは難しいと思われるため、各分野におけるまちづくりの協働相手としてコラムを設定する等の工夫を検討してほしい。（委員）
- 第 6 次大津町振興総合計画は「みんなの役割」として記載がある。抽象的な記載になると思うが検討してほしい。（会長）
- 第 4 次大津町振興総合計画は「復興」、第 5 次大津町振興総合計画は「復興からの前進」がキーワードとなっていた。現時点の全国的な論調を踏まえると「所得の向上」がキーワードとなると考える。人材を確保するためには所得の向上が必要である。若い世代の所得の向上に向けて検討が必要である。（委員）
- 課題は優先順位があると考える。最もウイークポイントとなっている部分を改善して施策を進めていく必要がある。課題の深掘りと優先順位付けを行い優先順位に基づいて現状と課題の記載順番を調整すべきだと考える。（委員）
- いずれの課題も重要であり優先順位を明確にすることは難しいが、対応を検討したい。（事務局）

4. 閉会

◆ 事務局より連絡事項（町民懇談会案内、第5回振興総合計画策定審議会の日程は11月19日（水）13時30分から開催予定、駐車場案内）を行った。

以上